

◆神田歩（毛呂山町）

青年海外協力隊 H27 年度 3 次隊
ボツワナ ソーシャルワーカー

ボツワナの結婚式

2016 年 1 月から南部アフリカのボツワナという国でソーシャルワーカーとして活動している神田歩と申します。

突然ですが、今年に入ってから日本に住む友達から、たくさんの結婚式の招待を頂きました（どうやら今年 30 歳になった私は第二次結婚ブームと呼ばれる時期だそうです）。残念ながら友達の晴れ姿を見に日本に帰ることは出来ませんでした。ここボツワナでは友達の数以上の結婚式に参加させてもらう機会に恵まれました。そんな「結婚式参列者のプロ」になりつつある私から今回はボツワナの結婚式についてご紹介しようと思います。

ブライドプライス

まず男女が「結婚」をするためには新郎が新婦の親族に対して「ボカーディ」と呼ばれるブライドプライスとして牛 8 頭（またはそれに準じるお金：日本円で 30-40 万円）を平均として渡すことが、南部アフリカの地域では伝統として今も残っています。また結婚式（披露宴）は新郎の出身地、新婦の出身地の 2 箇所で開催するため、その費用の支払いなど男性側には相当な出費があります。そのためか、結婚をしていないカップルやシングルマザーは結婚をしているカップルよりも遥かに多く、結婚はステータスシンボルのように考えられているようです。また「結婚」は男女ともに、することによって晴れて「一人前」とみなされ、地域での会議で発言権が与えられたり、呼び名が変わったりと、より尊敬されるべき存在になると言われます。

結婚式

そんな大変お金のかかるボツワナ式結婚ですが、披露宴は相当お金をかけて派手に振舞うのがボツワナ式。屋外に大きなテントを張り、DJ がダンスミュージックを大音量で流し、新郎新婦と、その友達から編成されるブライドメイツが練習を重ねたダンスを踊りながら会場に入場し、親族紹介や村長の話の後にセスワという牛肉料理をみんなで頂くというのがお決まりのパターンです。日本とは異なり、誰でも参加 OK（ご祝儀文化はないので招待客も手ぶらで来ます）アフリカドレスに身を包んだ女性も多くいますが、カジュアルスタイルの人も多く、みんな、そこで振舞われる食事やダンスを楽しみに、参列します。

ここボツワナに着任してから早いもので 1 年と 8 ヶ月が過ぎました。いつも陽気で、少しお節介すぎるくらい優しい人々に日々助けられ、ソーシャルワーカーとしての活動もプライベートも充実したものになっています。残りの任期もボツワナの人々と歌にダンスを楽しみながら、過ごして生きたいと思います。(2017/9/7)



写真 1

参加者の多くはボツワナの国旗カラー（青、白、黒）のドレスを身にまとってることが多い。



写真 2:

伝統料理のセスワは、牛肉を長時間、水と塩だけで煮込み、ほぐしたもの。



写真 3:

伝統料理のセスワは男性が作るとされており、女子禁制の台所で作られる。



写真 4:
ブライドメイツも何度もお色直し
をして、新郎新婦と練習を重ね
たダンスを披露する。



写真 5:
ボツワナの国旗カラー(青、白、
黒)でセッティングされた会場で
ポーズをとる新郎新婦。